

20231024 「ファストファッション」の衝撃

皆さんは、「ファストファッション」という言葉をご存知でしょうか。最新の流行を取り入れながら低価格に抑えた衣料品を、短いサイクルで世界的に大量生産・販売するファッションブランドです。代表的なブランドは、売上高業界世界第3位のUNIQLO(日本)や業界4位のGAP(アメリカ)、スペインのZARA(世界1位)、スウェーデンのH&M(世界2位)などでしょうか。安くて、ファッションナブルで、質もいと、ファストファッションは、まさに庶民の味方!という感じです。1998年には、UNIQLOのフリースが、老若男女問わず、一大ブームを巻き起こしました。「ヒートテック」という機能性インナーを発売したのもUNIQLOです。2003年の発売で、この20年で販売数は累計で15億枚を突破したと報じられました。ヒートテックは、今や冬の必需品といえるかもしれません。

ファッション性も機能性もよく研究されていて、常に新しいものを消費者に提供してくれるこうした衣料品ブランドですが、あるニュースを通して、その闇の部分が世界に明らかになりました。

2013年4月24日、バングラディッシュの首都ダッカから北西20kmにあるシャバルという町で、8階建ての商業ビル「ラナ・プラザ」が崩落しました。死者1127人、行方不明者約500人、負傷者2500人以上を出したこの事故は、メディアでも大々的に報道され、ファッション史上最悪の事故と呼ばれています。建物は違法な増築が繰り返され、内部は劣悪な環境で労働者がひしめき合う状態だったといえます。この建物の中には、欧米のブランドの下請けの縫製工場が入っていました。この

事故で犠牲になった人の多くは、その工場で働いていた若い女性たちでした。先進国のメーカーがより安い労働力を求めた結果、末端の人たちにしわ寄せがいく悲劇となったのです。事故後、ブランド側は、「そんな状況にあるとは知らなかった」と、責任を否定しました。しかし、この事故は、「私達が着る安価なファストファッションが、このような犠牲の上に成り立っているのであれば、その服を着る意味はどこにあるのか」と、世界中の人々が問題意識をもつきっかけになりました。エシカル（倫理的）なファッションへの取組が世界的に加速することとなり、日本国内でも「サステイナブル（持続可能）」というキーワードを用いたファッションが注目を集めるようになりました。このエシカル消費の流れは、イギリス、ドイツ、オランダを中心に高まりを見せ、エシカルであることが当たり前で、教養のある人のたしなみであると捉えられるようになりました。

そもそも、どうしてデニムが1000円台で買えるのか、Tシャツが100円以下で買えるのか、ファストファッションのタグを見ればその理由は明らかです。「Made in Bangladesh」「Made in Vietnam」などが並びますが、それらはいずれも人件費の安い国です。事故のあったバングラディッシュは今も貧しく、平均年収は20万円ほどと低いです。先進国の服飾メーカーは、こうした安価な労働力のおかげで原価を抑え、安価で販売することができるのです。ファッションにおける産業事故、労働災害は、このラナ・プラザに限ったことではありません。世界で服を作る仕事に従事している人は、相変わらず低賃金で過酷な労働環境で働かされています。労働者は、18歳から35歳の女性が8割を占めていると低いです。

では、そうしたファッションはエシカルでないからと、買いひかえたとしましょう。しかし、それは彼女たちの仕事を奪うことになります。それならば、環境が劣悪であろうとつくり続け、売り続けるしかないのでしょうか

か。消費者である私たちは、仕方がない、自分には何もできることはない
と傍観するしかないのでしょうか。確かに今は何もできないのかもしれない
けれど、だから無関心でいい、別に知らなくてもいいということには
なりません。できる、できないにかかわらず、しっかり関心をもって、事
実から目をそらさずに、いけないことはいけないと声を広げていくこと
はできます。服に限ったことではありません。少し気を付けて見渡してみ
ると、いたる所にサプライチェーン（その商品の原料がどこでどのよう
につくられ、どのようにして製品化され、どのように運ばれ、どのよう
にして売られているか）の不透明さが感じられる商品の存在を見つけること
ができるのではないのでしょうか。子ども達には、そうした視点をしっかり
養って行って欲しい、世の中を見て行って欲しいと思います。他人任せの
傍観者でなく、よりよい社会をつくる主体者として。誰かの犠牲の上に成
り立つ豊かさを私たちは「持続可能」とは呼ばないことをしっかり真っ白
なキャンバスに刻んで行って欲しいと思います。

安価で人権に配慮しない労働、安価な製品、大量消費、短いサイクルでの
新商品開発、この連鎖の中で、悲惨な事故が起きました。事業者も、消費
者もエシカルでサステイナブルなファッションの在り方を模索していく
必要があります。